

# 保育者養成課程での音楽授業における演奏技能の 評価に関する一考察

## —質問紙調査の分析を通して—

小栗祐子

(東海学院大学人間関係学部子ども発達学科)

### 要 約

本稿は、保育者養成課程での音楽授業においてピアノの弾き歌いに関する演奏技能を評価する実技試験では、個々のピアノ演奏専門教師がどのような評価の視点を暗黙のうちにもってピアノの弾き歌いに関する演奏技能を評価しているのか、そこにどのような共通点や差異があるのかについて、現職教師 10 名への質問紙調査を通して考察することを目的とする。分析の結果、ピアノ演奏専門教師が暗黙のうちにもっている評価の視点の特徴として、以下の 4 点が明らかとなった。それは、1. 評価基準としての「演奏の持続性」、2. 評価の視点の多岐性、3. 評価の視点の個人性、4. 演奏パフォーマンスの影響であった。本研究の成果は、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能の評価において、評価者が暗黙のうちにもっている評価の視点を可視化しその特徴について考察し改めて問題提起を行うことができた点にある。今後の課題は、保育者養成課程におけるピアノの弾き歌いに関する知識・技術について保育者の専門性の観点から捉え直し理論的検討を行うことである。

キーワード：保育者養成課程、ピアノ演奏技能、評価、

## I 問題意識と研究の目的

### 1. 問題意識

大学での保育者<sup>1)</sup>養成課程における音楽授業では、ピアノを弾きながら子どもの歌を歌うピアノの弾き歌い(以下、ピアノの弾き歌いと表記)に関する演奏技能の習得を中心とした指導が伝統的に位置づけられてきた。ここでは、一對一のピアノレッスンが行われ、ピアノ演奏に必要な楽典的知識が教えられ、教則本や子どもの歌の教材集を使った演奏指導が行われてきた。そして、定期試験ではピアノの弾き歌いに関する演奏技能の習得状況を評価するために実技試験が行われ、ピアノレッスンを担当する複数のピアノ演奏専門教師によって評価や評定がなされてきた。

学生が授業を通して習得したピアノの弾き歌いに関する演奏技能に関わる最終評価は、前述した通り実技試験によって行われる。具体的には、授業でのピアノレッスンの場面では、一人の教師が担当する学生に対してマンツーマンの指導が行なわれているが、最終評価を行う実技試験の場面では、複数のピアノ演奏専門教師によって、

一人一人の学生の演奏技能の評価が行われる。最終的には、複数の教師が出した評価を照合させ簡単なモデレーションによって最終評価結果を決定する場合や、複数の教師が出した評価を参考にしながら、その授業の代表教員が最終評価結果を決定する場合もあり、評価結果の決定方法については大学教員の裁量に委ねられている。

筆者はこれまで保育者養成課程において音楽授業を担当し、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能を評価するための実技試験に携わってきた。そこでの経験を通して、複数の教員が関わってピアノ演奏の技能を評価するための実技試験では、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能を評価する際に必要な評価基準が不明瞭であり、評価される学生にとっても評価する教師にとっても、評価の妥当性が問えないという問題を痛感してきた。例えば、評価方法を例にとると、一人の学生のピアノの弾き歌いを視聴して、個々のピアノ演奏専門教師は 5 点満点などの数値によって採点することが多い。しかし、どのような演奏が 5 点であり 4 点や 3 点とどのように区別するのかという評価基準は明確にされないことがほとんどである。

あるいは、「きちんと練習できているか」、「子どもが楽しく歌えるか」など評価の観点の観点が抽象的にしか説明されないことがほとんどである。その結果、主観的な価値判断によって学生のピアノの弾き歌いに関する演奏技能の習得状況が評価されることになってしまっている。つまり、保育者養成課程において学生のピアノの弾き歌いに関する演奏技能の習得状況を評価するには、その授業の目標に準拠した評価を行うことが必要であるにも関わらず、個々のピアノ演奏専門教師の中に暗黙のうちに存在する主観的な価値判断に依拠した評価、すなわち絶対評価(田中 2008)<sup>2)</sup>によって、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能の評価が続けられてきたと言えよう。教師による絶対評価の最大の問題点は、評価する教師がもつ独自の尺度によって評価が左右されてしまい評価の妥当性が問えなくなる点にある。

以上のような問題を抱えているにも関わらず、これまで保育者養成課程での音楽授業におけるピアノの弾き歌いに関する演奏技能の評価に対して問題提起を行なった先行研究はごく限られている。筆者はこの問題を直視し、まずは、個々の教師が一体どのような評価の視点を暗黙のうちにもち学生のピアノの弾き歌いに関する演奏技能を評価しているのかを浮き彫りにすることから研究を始めたいと考えた。

## 2. 研究の目的

以上より本研究では、保育者養成課程での音楽授業においてピアノの弾き歌いに関する演奏技能を評価する実技試験では、個々のピアノ演奏専門教師がどのような評価の視点を暗黙のうちにもちピアノの弾き歌いに関する演奏技能を評価しているのか、そこにどのような共通点や差異があるのかについて考察することを目的とする。評価の視点とは、評価者が学生のピアノの弾き歌いによる演奏の何に注目して評価しているのかという、評価対象であるピアノ演奏の具体的な注目点を指す。

## II 研究の方法

### 1. 研究の方法

研究の方法は以下の通りである。

最初に、保育者養成課程でのピアノ弾き歌いに関する授業を担当している現職教師 9 人に対して質問紙調査<sup>3)</sup>を行う。筆者も同様に質問紙に答える。筆者を含む 10 人の現職教師(以下、T1,T2・・・と表記)は、4 名の学

生(以下、学生 A, 学生 B, 学生 C, 学生 D と表記)の演奏録画を観察しピアノ演奏の技能の評価に関して質問紙に記入する。

次に、10 人の質問紙の記述内容を分析資料として、評価者である個々のピアノ演奏専門教師(以下、評価者と表記)が学生のピアノの弾き歌いの何に注目して評価しているのかを視点を分析する。

最後に、分析結果に基づいて、評価者が暗黙のうちに持っている評価基準にどのような共通点や差異があるのかについて考察する。

なお、本研究で取り上げた分析対象資料は、岐阜県内 A 大学保育者養成課程での音楽授業(代表教員は筆者)においてピアノの弾き歌いに関する演奏技能を評価する実技試験に参加した学生の演奏の録画記録である。本研究における演奏の録画記録の使用については、本研究で取り上げる学生に対して研究の趣旨や倫理的配慮事項を事前に説明し、了承を得た。また、本研究によって実技試験による評価結果に影響が及ばないように、実技試験による評価結果を出し変更不可能になった時期に本研究を開始した。

本研究に関しては本学の研究倫理委員会に申請を提出し承認を得ている。

## 2. 分析の手続き

本研究では、以下のような分析の手続きをとる。

- (1) 質問紙調査を行う。質問紙の問いは、表 1 のとおりである。
- (2) 学生のピアノ演奏の何に注目して評価しているのかを分析視点として 10 人の評価者の自由記述文を解釈し、評価の視点をカテゴリー化して抽出する。
- (3) 抽出したカテゴリーに基づいて、個々の評価者が暗黙のうちに持っている評価基の視点の特徴を把握する。

表 1 質問紙の問い

①評価数値	②記述の内容(複数あれば、項目別に箇条書きにしてください)
3:十分である	判断の要因となった特徴をできるだけ具体的に、演奏の該当部分を例示するなどしながら書いてください。
2:概ねよい	
1:課題がある	

Ⅲ 分析結果

1. 質問紙における②記述の内容から抽出された  
カテゴリー

10人の評価者が、学生のピアノの弾き歌いの何に注目

して評価しているのかを視点にしてそれぞれの自由記述  
文を解釈し、評価の視点を17項目にカテゴリー化して  
抽出した(表2)。

表2 記述内容からカテゴリー化して抽出した評価の視点

a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z
演奏の持続性	身体的感受性	曲想	速度	リズム	拍子・拍節	アーティキュレーション	ダイナミクス	即興性	ピアノ伴奏・奏法	ペダリング	歌声の音量・明瞭さ	子どもが歌うことへの影響	歌いだしの指示・タイミング	視線を向ける	態度	その他

2. 評価の視点の可視化

ここでは、表3のとおり、個々の評価者が暗黙のうちにもっている評価の視点を図式化して可視化することにより、  
個々の評価者が暗黙のうちにもっている評価の視点の特徴を分析する。

表3 個々の評価者が暗黙の裡に持っている評価の視点

評価者	抽出された評価の視点																評価者の記述例		
	全ての学生に共通の視点								全ての学生に共通の視点ではない										
T1	学生 A	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a 「途中で間違えても音楽の流れを止めずに最後まで弾いていたのでよい」 d 「少しずつ速くなり歌いにくかった」 e 「止まることなく、一定のリズムを保っていた」 j 「途中、ピアノが止まってしまったが歌は止まらないで最後まで演奏できた」 p 「何度も止まってしまう、歌の伴奏として歌うことができない」
	B	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	
	C	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	
	D	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	
	a 演奏の持続性	d 速度	e リズム	j 即興性	p 子どもが歌うことへの影響														
T2	学生 A	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a/z 「演奏、譜読み共にミスはあるものの、流れを止めることなく歌い出しの指示や演奏を何らかの形で続けることができた」 c 「全体的に明るく楽しそうな雰囲気がよい」 g/k 「演奏技術は悪くないと思うが、左手のリズムの刻みがもっと軽くなるとよい」
	B	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	
	C	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	
	D	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	
	k ピアノ伴奏・奏法	q 歌いだしの指示	c 曲想	g アーティキュレーション	r 視線を向ける														

保育者養成課程での音楽授業における演奏技能の 評価に関する一考察

		z その他(譜読み)	k 「演奏技術が整っている」 q 「流れとは違う歌い出しの指示も残念」 r 「子どもたちの方を見る余裕もあり良い」																																																																								
T3	学生	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>B</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>C</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>D</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> </table>	A	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	B	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	C	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	D	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	
	A	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																									
B	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																										
C	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																										
D	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																										
		<p>a 演奏の持続性</p> <p>j 即興性</p> <p>p 子どもが歌うことへの影響</p> <p>c 曲想</p> <p>k ピアノ伴奏・奏法</p> <p>m 歌声の音量・明瞭さ</p> <p>r 視線を向ける</p>	<p>a/j 「途中、伴奏が途切れたが、歌い続けることで、歌の流れが止まらなかった」</p> <p>c/k 「伸びやかな伴奏と歌唱ができており、歌・音楽に表情がある」</p> <p>m 「ピアノを弾きながらある程度の音量をもって歌うことができた」</p> <p>a/p 「旋律音の間違い、コードの間違いが多すぎて、つまづいた部分を何度も弾き直したり、大きな間が開いたりするため、音楽の流れが止まってしまった。→歌を歌うことが不可能」</p> <p>r 「歌い手のほうに時々視線を向けている」</p>																																																																								
T4	学生	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>B</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>C</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>D</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> </table>	A	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	B	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	C	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	D	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	
	A	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																									
B	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																										
C	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																										
D	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																										
		<p>a 演奏の持続性</p> <p>j 即興性</p> <p>k ピアノ伴奏・奏法</p> <p>p 子どもが歌うことへの影響</p> <p>c 曲想</p> <p>g アーティキュレーション</p> <p>q 歌い出しの指示</p> <p>s 態度</p>	<p>a/j 「途中抜けした部分は、歌だけでつなげており、臨機応変に対応できるくらい弾き込んでいたことが分かる」</p> <p>c 「演奏が少し固い感じがする」</p> <p>k/g 「なめらかな演奏でよい」</p> <p>p 「途中で止まり、歌を障害したが、曲の最後だったので、子どもは何とか歌えると思う」</p> <p>q 「前奏から歌へタイミング良く移れていない」</p> <p>s 「D.C.前で止まったり、途中抜けしたが、一生懸命さが伝わってくる」</p>																																																																								
T5	学生	<table border="1"> <tr><td>A</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>B</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>C</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>D</td><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> </table>	A	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	B	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	C	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	D	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	
	A	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																									
B	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																										
C	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																										
D	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																										
	a 演奏の持続性	<p>j 即興性</p> <p>k ピアノ伴奏・奏法</p> <p>c 曲想</p>	<p>a/j 「後半のつまづきで1か2かの判断は迷うところですが、ピアノの止まった部分を歌でカバーし、流れを止めず演奏を終えた」</p> <p>c/k 「簡易伴奏ではなくオリジナルの伴奏で表情も</p>																																																																								

			よく感じ取れた」																																																																				
T6	学生 A <table border="1"><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr></table>	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z		
	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																						
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
		a 演奏の持続性 b 身体的感受性 c 曲想 d 速度 r 視線を向ける f 拍子・拍節 g アーティキュレーション h ダイナミクス j 即興性 m 歌声の音量 p 子どもが歌うことへの影響 q 歌いだしの指示	a/j 「ピアノ伴奏が途切れても歌ってつなげており、音楽の流れを止めないところが良い」 b/f/c 「身体でも拍を感じながら演奏できており、楽しい雰囲気は伝わる」 c/g/h 「楽曲の雰囲気を捉えていて、音の強弱やタッチのニュアンスで情景がよく伝わってくる演奏となっていてよい」 d 「一定のテンポを保って弾いていてよい」 m 「焦りからか歌が乱れたので少し残念」 p 「止まって始まるときも自分のペースで勝手に弾き歌い、相手への意識が皆無である」 q 「歌い出しも音楽の中でできており、自然に引き込まれる」 r 「弾き始めや歌い出しの際、子どもをみており意識がうかがえてよい。」																																																																				
T7	学生 A <table border="1"><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr></table>	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z		
	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																						
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
		a 演奏の持続性 j 即興性 l ペダリング m 歌声の音量 p 子どもが歌うことへの影響 s 態度 z その他	a/j 「ピアノの失敗はありましたが、歌でつないで流れを止めなかったことはよい」 l 「ペダルも使えてよい」 m 「声は出ているので惜しい。」 p 「歌いやすい伴奏」 s 「余裕がない」 z 「よく弾けている」																																																																				
T8	学生 A <table border="1"><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr></table>	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z		
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							

保育者養成課程での音楽授業における演奏技能の 評価に関する一考察

		<p>a 演奏の持続性 c 曲想 d 速度 g アーティキュレーション h ダイナミクス j 即興性 k ピアノ伴奏・奏法 m 歌声の音量 p 子どもが歌うことへの影響 q 歌いだしの指示 r 視線を向ける s 態度</p>	<p>a/j 「途中で間違えても歌だけで繋ぎ、通していたのが おおむね良い」 c/k/m 「曲の特徴のほのぼのとした揺れるイメージの表現が、伴奏、歌声でよく伝わっていて十分である。」 d/q 「掛け声もテンポの中でできておりよい」 g/r 「最初にアイコンタクトがあり出だしも軽快に前奏が弾けていてよい」 p 「最初から自分の伴奏に必死で歌ってもらおうというコンタクトがなく、入り方もわかりづらい」 s 「あきらめずに最後まで弾いたのはよい」</p>																																																																				
T9	<p>学生 A B C D</p> <table border="1"> <tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> </table>	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z		
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
	r 視線を向ける	<p>a 演奏の持続性 c 曲想 q 歌いだしの指示 d 速度 e リズム g アーティキュレーション j 即興性 m 歌声の音量</p>	<p>a/j/m 「曲の終盤ではほんの少しのつまづきにより演奏の手が止まってしまったが、流れを止めることなく、大きな声で歌うことでカバーしていた点を評価した」 c/g 「曲にふさわしいニュアンスでうまく表現できている」 d/e 「曲にふさわしいテンポとリズム感で演奏できている」 q 「アイコンタクトや掛け声もよくできていた」 r 「冒頭部の声掛け、途中のアイコンタクト、演奏の技量不足により流れがとまってしまったことで多くの課題があると判断した」</p>																																																																				
T10	<p>学生 A B C D</p> <table border="1"> <tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> <tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td><td>d</td><td>e</td><td>f</td><td>g</td><td>h</td><td>j</td><td>k</td><td>l</td><td>m</td><td>p</td><td>q</td><td>r</td><td>s</td><td>z</td></tr> </table>	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z		
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							
a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	l	m	p	q	r	s	z																																																							

<p>f 拍子拍節 q 歌いだしの指示</p>	<p>a 演奏の持続性 b 身体的感受性 c 曲想 d 速度 k ピアノ伴奏・奏法 m 歌声の音量 p 子どもが歌うことへの影響 r 視線を向ける</p>	<p>a/k 「左手で和音を刻んでいるが本人にとって難度が高いため何度も間違えてしまい、音楽の流れが止まる」 b 「曲想に合わせて身体の動きを音楽の動きと同調させながら演奏している」 c 「左手で和音を刻んでいるが本人にとって難度が少し高いため、拍節感が重くなってしまい、元気に前に進んでいくような曲の感じを妨げている」 d/k 「左手のはっきりした和音でテンポを一定に刻んでおり、歌いやすい」 f/r/q 「拍節に乗って明確に「はい」の合図を送っている。「はい」という言葉だけでなく、歌い手に視線を向けるという視線によっても合図を送っている」 m 「歌声がはっきりと聴こえる」 p/q 「拍節に乗って明確に「はい」の合図を送っている。2番に入る前にも合図を送っており、子どもにとってわかりやすい」</p>
-----------------------------	---	---

### 3. 評価の視点の特徴

表3に基づき、個々の評価者が暗黙のうちにもっている評価の視点の特徴について、以下のとおり分析した。

- ① 評価者 T1:全ての学生に対して、a [演奏の持続性] を視点に評価していた。一方、d [速度]、e [リズム]、j [即興性]、p [子どもが歌うことへの影響] については、学生によって視点の置き所が違っていた。
- ② 評価者 T2:全ての学生に対する共通の評価の視点はなかった。a [演奏の持続性] と q [歌い出しの指示] については、1人の学生を除く3人には共通の視点となっていた。
- ③ 評価者 T3:全ての学生に対する共通の評価の視点はなかった。a [演奏の持続性] については、1人の学生を除く3人には共通の視点となっていた。c [曲想]、k [ピアノ伴奏・奏法]、r [視線を向ける] については、1人の学生だけに用いた評価の視点となっていた。
- ④ 評価者 T4:全ての学生に対する共通の評価の視点はなかった。a [演奏の持続性] については、1人の学生を除く3人には共通の視点となっていた。J [即興性]、k [ピアノ伴奏・奏法]、p [子どもが歌うことへの影響]、c [曲想]、g [アーティキュレーション]、q [歌い出しの指示]、s [態度] は、学生によってそれぞれの視点の置き所が異なっていた。
- ⑤ 評価者 T5:全ての学生に対して、a [演奏の持続性] を視点に評価していた。J [即興性]、k [ピアノ伴奏・奏法]、c [曲想] については、学生によって視点の置き所が異なっていた。c [曲想] については、1人の学生だけに用いた評価の視点となっていた。
- ⑥ 評価者 T6:全ての学生に対する共通の評価の視点はなかった。a [演奏の持続性]、b [身体的感受性]、c [曲想]、d [速度]、f [拍子・拍節]、g [アーティキュレーション]、h [ダイナミクス]、j [即興性]、m [歌声の音量]、p [子どもが歌うことへの影響]、q [歌いだしの指示]、r [視線を向ける] については、学生によって視点の置き所が異なっていた。f、g、h、j、m、p、q の項目は1人の学生だけに用いた評価の視点となっていた。
- ⑦ 評価者 T7:全ての学生に対する共通の評価の視点はなかった。a [演奏の持続性] については、1人の学生を除く3人には共通の視点となっていた。j [即興性]

性)、l [ペダリング]、m [歌声の音量]、p [子どもが歌うことへの影響] s [態度]、z [その他(よく弾けている)] については、1人の学生だけに用いた評価の視点となっていた。特に、l「ペダリング」については、10人の中で評価者 T7 だけが用いていた視点であった。

- ⑧ 評価者 T8:全ての学生に対する共通の評価の視点はなかった。a [演奏の持続性] については、1人の学生を除く 3人には共通の視点となっていた。c [曲想]、d [速度]、k [ピアノ伴奏・奏法]、m [歌声の音量]、q [歌いだしの指示]、r [視線を向ける]、g [アーティキュレーション]、h [ダイナミクス]、j [即興性]、p [子どもが歌うことへの影響]、s [態度] については、学生によって視点の置き所が異なっていた。
- ⑨ 評価者 T9:全ての学生に対して、r「視線を向ける」を視点に評価していた。a [演奏の持続性]、c [曲想]、q [歌いだしの指示]、d [速度]、e [リズム]、g [アーティキュレーション]、j [即興性]、m [歌声の音量] については、学生によって視点の置き所が異なっていた。
- ⑩ 評価者 T10 :全ての学生に対して、f [拍子・拍節] と q [歌い出しの指示] を視点に評価していた。k [ピアノ伴奏・奏法]、m [歌声の音量]、p [子どもが歌うことへの影響] r [視線を向ける] については、1人の学生を除く 3人に共通の視点となっていた。a [演奏の持続性] については、1人の学生だけに用いた評価の視点となっていた。

## V 考察

以上の分析結果に基づき、評価者が暗黙のうちにもっている評価の視点にどのような共通点や差異があるのかについて考察する。

### 1. 評価基準としての「演奏の持続性」

7人の評価者が、全ての学生に対して、あるいは1人の学生を除く 3人には共通の視点をもって評価していたのが、a [演奏の持続性] という視点であった。この結果から、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能の評価において、「演奏の持続性」、つまり途中で途切れることなくひとまとまりの音楽として演奏することができるかどうかという視点は概ね共通であり、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能の評価基準になっていると言える。ただし、この評価基準は評価者間で共有されていない。

### 2. 評価の視点の多岐性

評価者が暗黙のうちにもっている評価の視点は 17 のカテゴリーに分類されるほど多岐にわたっていた。その上、個々の評価者が用いた視点のカテゴリー数は、4 カテゴリーという最も少ない評価の視点で評価を行っていた評価者から、14 カテゴリーという多くの評価の視点をもって評価を行っていた評価者がいるというように、評価者がもっている評価の視点の多岐性が浮き彫りになった。

### 3. 評価の視点の個人性

10人の評価者のそれぞれが 1人学生のピアノの弾き歌いに対して用いた評価の視点を比較すると、評価者それぞれが評価の視点を自分なりに組み合わせて評価していることがわかる。例えば、学生 A のピアノの弾き歌いに対して、T9 は c、d、e、r の視点を用いて評価を行っているが、T10 は c、d、f、k、m、q、r の視点で評価している。学生 A のピアノの弾き歌いに対するその他の評価者についても、全く同じ視点から評価している評価者は一人もいない。このように、1人の学生のピアノの弾き歌いに対してどの評価の視点によって評価するのかについては個人に委ねられており、個人性が高い。

### 4. 演奏パフォーマンスの影響

以上に考察したように、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能の評価において、「演奏の持続性」の視点は概ね共通であり、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能の評価基準になっている。しかし、それは評価者間で共有されておらず、個々の評価者が暗黙のうちに形成した視点である。その他の評価の視点は多岐にわたり、評価の視点の組み合わせも個人性が極めて高いことがわかった。さらに言えば、一人の評価者の中でも、どのような演奏の到達水準にある学生に対しても共通の評価の視点をもっていかると言えば必ずしもそうではなく、個々の評価者がもっている評価の視点は安定しているとは言えない。このような状況を引き起こす要因として、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能の評価基準が明示化されておらず評価者間で共有されていないことがある。その結果、評価者は目前に展開する学生のピアノの弾き歌いの演奏パフォーマンスに強く影響を受け、演奏する学生の姿に合わせて評価の物差しを変えながら評価する傾向が強くなっている可能性がある。

結局のところ、評価者はピアノ演奏を専門とする演奏



家の立場から、学生のピアノの弾き歌いに関する演奏技能を評価しているのかもしれない。保育者養成課程においては、保育者の専門性を支える知識・技術の習得状況を評価することが重要な観点となるはずである。しかし、いざ目の前で学生が演奏すると、評価者は、「ピアノ演奏家」という眼鏡をかけて「ピアノの弾き歌いの演奏」を評価しているのではないだろうか。

## VI 研究の成果と今後の課題

本研究の成果は、ピアノの弾き歌いに関する演奏技能の評価において、評価者が暗黙のうちにもっている評価の視点を可視化しその特徴について考察し改めて問題提起を行うことができた点にある。今後の課題は、保育者養成課程におけるピアノの弾き歌いに関する知識・技術について保育者の専門性の観点から捉え直し理論的検討を行うことである。

## 謝辞

本研究においては、保育者養成課程でのピアノ弾き歌いに関する授業を担当している現職教師9人の方々に快く研究参加をご承諾いただき、さらに質問紙への貴重な

ご回答をいただきました。ここに感謝の意を表します。

## 注

- 1) 本稿で言う保育者とは、横山(2019)の定義に従い、「制度上規定されている幼稚園教諭免許や保育士資格を取得した者の総称」を指す。横山真理(2019)「保育内容領域『表現』の授業における学生の気付きを促す『音の散歩道づくり』の教材性」東海学院大学年報第4号, p. 64
- 2) 田中耕治(2008)「アチーブメント・テストの系譜」『教育評価』岩波書店, pp. 16-17
- 3) 質問紙調査は、2019年10月～11月に評価者個々に評価資料を配布し、回答を回収した。

## A Study of the Evaluation of Piano Performance Skills in Nursery Teachers Training Course : Based on a Questionnaire Survey

OGURI Yuko

保育者養成課程での音楽授業における演奏技能の 評価に関する一考察

【資料】

教師	学生	評価数値	判断の要因となった特徴	カテゴリー
T 1	A	2	・途中で間違えても音楽の流れを止めずに最後まで弾いていたので良い ・少しずつ速くなり歌いにくかった。 J J 2分音符 2分音符で速くなる。2番では全体に速くなった	a d j
T 1	B	1	・何度も止まってしまい、歌の伴奏として歌うことができない	a p
T 1	C	3	・止まることなく、一定のリズムを保っていた。	a e
T 1	C	3	・余裕がある速さで呼吸もしやすく歌いやすい	d p
T 1	D	2	・一定のテンポを保つよう意識して演奏していた。	d
T 1	D	2	・途中、ピアノが止まってしまったが歌は止まらないで最後まで演奏できた	a j
T 2	A	2	・全体的に明るく楽しそうな雰囲気がよい。	c
T 2	A	2	・最後にミスで流れが止まってしまったのが残念。	a
T 2	A	2	・演奏技術は悪くないと思うが、左手のリズムの刻みをもっと軽くなると良かった	z k g
T 2	B	1	・流れが止まってしまったことが何より残念。	a
T 2	B	1	・流れとは違う歌い出しの指示も残念。	q
T 2	C	3	・ピアノの演奏技術が整っている。	z
T 2	C	3	・歌い出しの指示も分かりやすい。	q
T 2	C	3	・子どもたちの方を見る余裕もあり良い。	r
T 2	D	2	・演奏、譜読み共にミスはあるものの、流れを止めることなく歌い出しの指示や演奏を何らかの形で続けることができた。	a q
T 3	A	2	・全体に何とか歌・音楽の流れが保たれている。	a
T 3	A	2	・ピアノを弾きながらある程度の声量をもって歌うことができた。	m
T 3	A	2	・最初と最後につまづいたが、すぐに訂正しており、その部分なら子どもが歌うことに大きな影響はないと思う。そのくらいは愛嬌として許したい。(もちろん間違えない方がよいが。)	p j
T 3	B	1	・旋律音の間違い、コードの間違いが多すぎて、つまづいた部分を何度も弾き直したり、大きな間が開いたりするため、音楽の流れが止まってしまった。→歌を歌うことが不可能。	a
T 3	B	1	・止まりすぎて子どもが歌えない。	p
T 3	C	3	・伸びやかな伴奏と歌唱ができており、歌・音楽に表情がある。	c k
T 3	C	3	・歌い手のほうに時々視線を向けている？	r
T 3	D	2	・途中、伴奏が途切れたが、歌い続けることで、歌の流れが止まらなかった。ただ、歌が勢いづいてしまったことが残念である。	a j
T 3	D	2	・最後には自然と伴奏を合わせることができた。	a
T 4	A	2	・前奏で止まってしまう	a
T 4	A	2	・1番…メロディを間違えたが、何とかつなげた	a j
T 4	A	2	・2番…途中で止まり、歌を阻害したが、曲の最後だったので、子どもは何とか歌えると思う	p
T 4	B	1	・前奏から歌へタイミング良く移れていない	q
T 4	B	1	・旋律のミスが多く、歌を阻害している	p
T 4	C	3	・なめらかな演奏でよい	k g
T 4	C	3	・小さなミスタッチがあったが、曲の流れを阻害していない	a
T 4	D	2	・演奏が少し固い感じがする	k c
T 4	D	2	・D.C.前で止まったり、途中抜けしたが、一生懸命さが伝わってくる	s
T 4	D	2	・途中抜けした部分は、歌だけでつなげており、臨機応変に対応できるくらい弾き込んでいたことが分かる	j
T 5	A	2	・冒頭と最後の部分が残念ではあるが、何とか通せている。	a j
T 5	B	1	・音楽が止まり、練習不足が否めない。	a
T 5	B	1	・和音・伴奏のコード進行が理解できていないよう	k
T 5	C	3	・簡易伴奏ではなくオリジナルの伴奏で表情もよく感じ取れた。	c k
T 5	C	3	・3か所のミスはあったが流れを止めていない。	a
T 5	D	2	・後半のつまづきで1か2かの判断は迷うところですが、ピアノの止まった部分を歌でカバーし、流れを止めず演奏を終えた	a j
T 6	A	2	・子ども役の学生を何度もみて意識しながら歌っていてよい。	r
T 6	A	2	・歌詞にあった演奏の工夫が見られないのが残念。	c
T 6	A	2	・身体でも拍を感じながら演奏できており、楽しい雰囲気は伝わる。	b f c
T 6	B	1	・演奏が止まりすぎて歌えない。	a
T 6	B	1	・止まって始まるときも自分のペースで勝手に弾き歌い、相手への意識が皆無である	d p
T 6	B	1	・準備不足が否めない	
T 6	C	3	・楽曲の雰囲気を捉えていて、音の強弱やタッチのニュアンスで情景がよく伝わってくる演奏となっていてよい。	c g h
T 6	C	3	・身体で情感を表現していて音だけでなく視覚的にもよい	b
T 6	C	3	・歌い出しも音楽の中でできており、自然に引き込まれる。	q

小栗祐子

T 6	D	2	・弾き始めや歌い出しの際、子どもをみており意識がうかがえてよい。途中でもアイコンタクトの余裕が欲しい。	r
T 6	D	2	・一定のテンポを保って弾いてよい。	d
T 6	D	2	・ピアノ伴奏が途切れても歌ってつなげており、音楽の流れを止めないところが良い。	a j
T 6	D	2	・焦りからか歌が乱れたので少し残念。	m
T 7	A	2	・失敗が最初と最後だったので、歌の流れは何とか止まらなかったで2。	a
T 7	A	2	・声は出ているので惜しい。	m
T 7	B	1	・失敗した回数や流れを止めてしまったことは残念。	a
T 7	B	1	・余裕がない	s
T 7	C	3	・よく弾けている。	z
T 7	C	3	・歌いやすい伴奏。	p
T 7	C	3	・ペダルも使えてよい	l
T 7	D	2	・ピアノの失敗はありましたが、歌でつないで流れを止めなかったことはよい。	a j
T 8	A	2	・最初にアイコンタクトがあり出だしも軽快に前奏が弾けてよい	r c k g
T 8	A	2	・左手のコード奏が一定のテンポで歌いやすい	d
T 8	A	2	・歌声も届いておりおおむね良い	m
T 8	A	2	・最後で間違えて躓いたのが惜しい	a
T 8	A	2	・表現力が乏しいので強弱が少し伝わりにくい	h
T 8	B	1	・最初から自分の伴奏に必死で歌ってもらおうというコンタクトがなく、入り方もわかりづらい	q p
T 8	B	1	・ミスがあっても多く流れを止めてしまうのがよくない	a
T 8	B	1	・間違えて弾けない時に笑ってごまかすのはよくない	s
T 8	B	1	・曲の途中もパートナーとのコンタクトが全くなく、自分のペースで演奏しているのが良くない	r
T 8	B	1	・あきらめずに最後まで弾いたのはよい	s
T 8	D	2	・前奏に入る前、歌に入る前にアイコンタクトを取り、入りやすく良い。	r
T 8	D	2	・掛け声もはっきりと伝わりテンポの中でできてよい。	d q
T 8	D	2	・左手のコード奏が押さえつけて重い感じがする	k
T 8	D	2	途中で間違えても歌だけで繋ぎ、通していたのが おおむね良い	a j
T 8	C	3	・曲に入る前から始まるよというコンタクトが感じられ、前奏から雰囲気もよく伝わった。	c
T 8	C	3	・掛け声もテンポの中でできておりよい	d q
T 8	C	3	・曲の特徴のほのぼのとした揺れるイメージの表現が、伴奏、歌声でよく伝わっていて十分である。	c k m
T 8	C	3	・間奏でも次はどんな様子なのかもっと聞いて歌いたくなる伴奏でとても良い。	c
T 9	A	2	・弾き歌いの途中、何度もアイコンタクトを心掛けている様子がうかがえたのでよい	r
T 9	A	2	・曲にふさわしいテンポとリズム感で演奏できている	d e
T 9	A	2	・笑いましょ・・・ 怒りましょ・・・ の歌詞のところで表情に変化があるとよい	c
T 9	B	1	・冒頭部の声掛け、途中のアイコンタクト、演奏の技量不足により流れがとまってしまったことで多くの課題があると判断した	q r z
T 9	B	1	・小節ごとにフレーズが細切れになってしまった	a
T 9	C	3	・技術的にも難易度の高い曲でありながらも、よく弾き込み、歌の方もアイコンタクトを取る余裕があり十分に達成で来ている	r q
T 9	C	3	・曲にふさわしいニュアンスでうまく表現できている。	c g
T 9	D	2	・曲の終盤でほんの少しのつまづきにより演奏の手が止まってしまったが、流れを止めることなく大きな声で歌うことでカバーしていた点を評価した。	a m j
T 9	D	2	・アイコンタクトや掛け声もよくできていた	q r
T 10	A	3	○拍節に乗って明確に「はい」の合図を送っている。	f q
T 10	A	3	○左手のはっきりした和音でテンポを一定に刻んでおり、歌いやすい。	d k
T 10	A	3	○歌声がはっきりと聴こえる。	m
T 10	A	3	○歌い手を時々見ながら歌っている。	r
T 10	B	1	●前奏の部分でつまづいたため、歌い出しが難しくなる。	a p
T 10	B	1	●「さんはい」の合図が拍節にのっていないため、歌い出しが難しい。	f p q
T 10	B	1	●左手で和音を刻んでいるが本人にとって難度が高いため何度も間違えてしまい、音楽の流れが止まる。	a k
T 10	B	1	●本人にとってピアノ演奏の難度が高いため両手で楽譜どおりに弾くことに意識をとられてしまい、子どもとっしょに歌うという意識がなくなってしまう。	k p
T 10	C	3	○拍節に乗って明確に「はい」の合図を送っている。2番に入る前にも合図を送っており、子どもにとってわかりやすい。	f p q
T 10	C	3	○曲想に合わせて身体の動きを音楽の動きと同調させながら演奏している。	b
T 10	C	3	○歌声がはっきりと聴こえる。	m
T 10	C	3	○歌い手を時々見ながら歌っている。	r

保育者養成課程での音楽授業における演奏技能の 評価に関する一考察

T10	D	2	○弾き出す前に歌手が準備できているかどうか、目視で確認していた。	r
T10	D	2	○拍節に乗って明確に「はい」の合図を送っている。「はい」という言葉だけでなく、歌手手に視線を向けるという視線によっても合図を送っている。	f r q
T10	D	2	○安定したテンポで歌っており、途中のフェルマータの部分も適切に演奏できている。	d
T10	D	2	●左手で和音を刻んでいるが本人にとって難度が少し高いため、拍節感が重くなってしまい、元気に前に進んでいくような曲の感を妨げている。	c k
T10	D	2	●ピアノを弾くことに意識をとられてしまい、歌手手を気にしたり歌手手に届くような声で明確に歌ったりすることへの意識ができなくなっている。	m p